



平成二六年度(第八六回)殉職消防職・団員慰霊祭が、八月二六日(火)午前一時から秋田市千秋公園本丸の「殉職消防組員招魂碑」前において、秋田県消防協会が祭主となり執り行われました。



災害の防止と消防活動の安全を誓う

平成二六年度殉職消防職・団員慰霊祭

題 字
初代会長 松野盛吉
定 価 1部 48円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中田 潤
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

平成二十六年全国統一防火標語
もういいかい
火を消すまでは
まあだだよ

名が参列しました。
慰霊祭は、招魂などの神事後、中田潤秋田県消防協会長が「招魂碑に合祀されております四五柱の御霊は、郷土の平安と地域住民の安心・安全を願い、我が身の危険をも顧みず勇猛果敢に懸命な消防防災活動を遂行するなか、尊くも職に殉じられました。不屈の消防魂をもって最後まで消防人としての職責を全うされたその崇高な精神は、県内消防人、約二万人の鑑であり、今も私達の心に生き続け、皆が等しく賛辞するところであり、われら消防人は、郷土愛護の精神と強固な団結力をもって、御霊のご遺訓を胸に、一致団結して厄災を防止し、地域住民の安全・安心のため最善の努力を尽くすことを誓う」と祭主祭文を奏



上しました。
堀井啓一秋田県副知事は、ご来賓を代表して「殉職者の皆様が生もって示された崇高な精神と果敢な行動は、今も本県消防人の心に生き続けております。私達は、皆様の御功績を心から讃えるとともに、その御遺志に応えるためにも、今後とも消防力の充実や、防災体制の強化に努め、県民の安全と平穏な社会の実現に向け、全力で取り組むことを誓う」と慰霊のことばを述べられました。
公益財団法人日本消防協会長と秋田県市長会長のメッセージの紹介に続き、玉串奉奠が行われ、中田会長、ご遺族を代表して潟上市の杉淵景悦様、ご来賓の方々が御霊の冥福を祈り、最後に送魂の神事が行われ、慰霊祭は滞りなく終えました。



第六八期初任教育入校生
殉職消防組員招魂碑を清掃
秋田県消防学校
秋田市千秋公園本丸に建立されている「殉職消防組員招魂碑」の清掃は、毎年、秋田県消防学校初任教育課程の情操教育の一環として行われています。
今年も、八月二六日(火)開催の慰霊祭に先立ち、二五日(月)に七八名の入校生によって行われました。
清掃は、碑内の玉石を移動させて枯れ葉やゴミを除去したり、碑周囲の雑草などを取り除いたほか、碑に付着したコケなどの汚れを水をかけて洗い流しました。清掃後、参加者全員が「招魂碑」に向かい黙とうを捧げました。
入校生の皆さんありがとうございました。

第二回理事会

秋田県消防協会

公益財団法人秋田県消防協会第二回理事会は、八月二十六日(火)、平成二六年度殉職消防職・団員慰霊祭終了後、秋田市中通の「イヤタカ」で開催されました。主な協議事項、報告事項についてお知らせします。

【協議事項】

①日本消防協会定例表彰の上申

表彰旗、竿頭綬などの表彰(功績章及び精績章の女性枠各一名を含む)については、各支部内申のとおり上申することとしましたが、特別表彰まとい、優良婦人消防隊及び隊員に関しては、支部からの内申はありませんでした。

②秋田県消防協会定例表彰

勤続章と
功労章は、
各支部から
上申のとお
り授与する
ことが承認
されました。
・勤続章
六二五名
・功労章
三〇名



③第五一回秋田県消防操法大会

今年の大会から、チーム表彰に加えて、新たに優秀な成績を収めた消防団員を「優秀選手賞」として表彰することとしました。

④全国女性消防操法大会の出場隊

平成二七年度開催の全国大会には、大仙市女性消防隊が出場することに決定、平成二九年度以降に開催する全国大会への出場隊については、引き続き協議することとしました。

【報告事項】

①平成二六年度消防車両の交付要望

各消防団から四台の要望がありました。共済加入率や車両保有状況また、交付車両は全国で七七台となつていること等を考慮し、本県から二台要望することとしました。

②第二四回全国消防操法大会

一月八日(土) 東京臨海広域防災公園で開催されること、また、秋田県代表はポンプ車操法の部に出場することを説明しました。

日(土) 東
京臨海広域
防災公園で
開催される
こと、また、
秋田県代表
はポンプ車
操法の部に
出場するこ
とを説明し
ました。



③第二〇回全国女性消防団員活性化

ちば大会

一月一四日(金)～一五(土)千葉県浦安市で開催される大会に、本県から女性消防団員三九名など五三名が参加します。

④平成二六年度秋田県女性消防団ネットワーク会議

九月二六日(金)に開催、講演の講師は、リスクウオッチ代表長谷川祐子氏に決まりました。

⑤全県消防団長研修

一月二四日(木)一四時から開催します。研修の内容は、報告発表・講演・意見交換などを予定しています。

⑥消防団員研修

■第四期女性消防団員研修

一月二五日(土)～二六日(日)

場所・秋田県消防学校

■消防団員指導員研修

一月二九日(土)～三〇日(日)

場所・秋田県消防学校

■消防団幹部教育

二月二八日(土)～三月一日(日)

場所・秋田県消防学校

■消防団基礎教育

三月七日(土)～八日(日)

場所・秋田県消防学校

※日本消防協会主催の研修は秋田県消防協会へ、消防大学校が開催する研修は県総合防災課にそれぞれお問い合わせ下さい。

地域防災力充実 強化大会が開催される

日本消防協会

消防団活動を理解してもらい、団員増を図ることを目的とした「消防団を中核とした地域防災力充実強化大会」が八月二九日(金)、東京国際フォーラムにおいて消防や防災の関係者など約千人が参加し開催されました。

大会は、安倍晋三内閣総理大臣などのあいさつに続き、全国各地の活動事例発表や会場内意見交換が行われました。

なお、本県からは次の五名が参加しました。

- ・由利本荘市消防団 周防 彦宗
- ・由利本荘市消防本部 眞坂 智
- ・三種町消防団 金子 忠夫
- ・三種町消防団 石井 咲子
- ・三種町消防団 中村 直美
- ・潟上市消防団



県内からの参加者

第十回 消 防 団 員 意見発表会(二)



上蘭美佐子

・鹿角市消防団
班長
・勤続三年
主婦

行事の司会進行やカラーガード隊、地域防災指導員や応急手当普及員としても活躍する、オールマイティー団員です。

「私達にできる活動の 充実を図る」

「足踏み状態から
足並みをそろえ一歩前進」

「みなさんこんにちは」(手話) 私は入団して今年で四年目を迎えました。入団当初の頃は、消防署や消防団の活動を目にする機会がほとんど無く、また、そうした場に足を運ぶこともありませんでした。入団前は、女性消防団員の存在も分からず、入団してからも、女性団員の役割、活動は何か深く考えることもなく、消防本部からの要請があれば参加するといった程度でした。また、様々な情報交換や交流の場に参加する機会を頂き、その都度、女性団員として

の認識不足を痛感しました。一方、習得することも多々ありました。各地域で多彩に活躍されている女性団員の存在を知り、私達の地区の活動に取り入れることは何かを考えました。一つ目は、女性団員としての自覚を強く持ち「活動出来る人が参加すればよい」、その意識をなくすこと、そして二つ目は、「一人より二人、二人より三人」と個人プレーではなくまとまりのある集団活動が、今一番私達の活動に必要なことだと感じました。

私達女性団員の生活形態は様々で、家事や子育ての時間を調整しながらの活動がほとんどで、小さい子どもを連れての会議もよくあることです。このため、参加人数の確保も難儀であります。これも私達女性団員会議の特徴でもあります。

団員確保は大きな課題であり、その上で活動の基盤づくりが最も重要な課題でもあります。

地域の方に「鹿角市には、身近に女性消防団という親近感のある消防組織がある」ということを積極的に発信していき、地域住民と密着した活動も増やしていけたらと思っています。

「いつからやるの?今でしょ!」足踏み状態から、足並みをそろえ、一歩前進することから、活動の視野を広げていきたいと思っています。

私達は男性団員のように消防車に乗って火災現場や災害現場に行くことはありません。しかし、私達女性団員は相手を思いやり、女性ならではの優しさ、きめ細やかさを生かした活動を心がけていきます。

私が冒頭、手話で挨拶をさせて頂きました。その理由の一つとして避難所対応やサイレン、避難情報が把握できない住民には、どの様な消防活動をしたら良いのか、その中には聴覚障害の方もおられます。聴覚障害の方には生活に密着している手話を使うことで最もコミュニケーションが取りやすいと聞きます。私は災害現場等でそのような方に遭遇したら、声かけ、つまり手話で少しでも不安材料を取り除いてあげられたらと思っています。手話はまだまだ勉強不足ですが、これからの活動の一つに女性団員一丸となつて手話講習などを取り入れた活動を心がけていきたいと思っています。

講習会や研修等で身に付けたものは知識や技術につながり、後に必ず自分の財産になり、取り組み続けることが何かを伝える「鍵」と確信しております。

私達女性団員も広報活動に止まらず、地域を守る女性団員として地域のために出来る活動を形にしていかなければと思います。そのためには、実際に災害現場で活動に当たられた

団員の方から体験談を聞く機会を設けて頂き、その中で女性団員としての役割、対応などの課題を見いだすことも可能ではないかと思えます。厳しさの中にも楽しさを取り入れながらをモットーに女性団員同士の連携を密にして行きたいと思えます。そして、この目的達成が本当の第一歩となるよう、活動内容の充実を図って行きたいと思えます。

つたない意見内容でしたが、最後までご静聴ありがとうございました。



加賀谷和敏

・小阿仁村消防団 班長
・勤続三年
自営業

「仲間達と苦楽を共に過ごした時間は一生の財産」と語り、操法練習後の一杯が至福のひとつときである、信望厚い班長です。

「消防団活動を通して」

消防団員、だった父の死をきっかけに、二一歳で上小阿仁村消防団に入団、早いもので三一年が経ちました。初めて火災現場に出動した時の事は、今でも鮮明に覚えています。赤く染まった空、音をたてて燃えさかる炎を目の当たりにし、ただただ恐

怖でいっぱいでした。真冬の寒さのためか、なかなか回らないエンジンとは裏腹に、屋根が崩れ落ちても勢いを増す炎に、身がすくむほどの不安や焦りを感じたものです。

また、大雨には警戒水位を超えた水が堤防を乗り越えようとする中、真夜中に一軒一軒住家を回り、避難命令を伝え歩いた事も思い出されます。その後火災、水害、捜索活動など、多くの災害を経験し、その一つ一つが私の消防団員としての自覚と自信に繋がりました。

特に、支部の操法訓練大会では、私自身も指揮者として小型ポンプ二回、ポンプ車に五回参加し、操法はもとより、回を重ねるごとに団員同士の繋がりが一層強くなった事は言うまでもありません。この人間関係は、地域においても大変重要です。

しかし、近年、消防団員の減少が著しく、我が消防団でも入団当初は六分団で構成されていましたが、今は半分の三分団となりま



県内で最も高齢者世帯が多く、人口が減り続ける我が村にとって、消防団員の勧誘も大事な仕事の一つです。こうした問題は、全国的にも同様で、消防団員の確保は地域の防災力を維持していく上で、極めて重要な課題ではないでしょうか。「消防団の活動が大変だ」「大会などの練習で時間がとられる」このような理由から入団を避けている若者がたくさんいるのも事実です。地域防災に欠かせない消防団の重要性を説きながら、これからの勧誘活動をして行くつもりです。また、女性消防団や消防団OBで作る新しい組織づくり家の倒壊などにより閉じ込められた人のうち、約九五パーセントが自力

や家族、隣人によつて救助されたそうです。このようなことから、共助の精神により私の集落でも今年から自主防災組織が設立されました。

消防団員が減少してきている今、公的機関や自治体、地域ぐるみで取り組む防災活動・防災訓練・もしもの時のシミュレーションをしつかり訓練し、備えることが重要だと感じています。

「地域の生命と財産を守る」簡単に言える言葉ではありませんが、防災意識を強く持ち、これからは消防団員としての誇りを胸に、地域のために活動を続けていこうと思います。ご静聴ありがとうございます。



東海林宏英

・能代市消防団
部長
・勤続二五年
・農事手伝い

平成元年に入団、今年で二五年を迎えます。
何事も積極的に活動し、部長として後進の指導にも努めています。

「入団から今日までの道程」

私が消防団に入団したのは、平成元年四月能代市消防団能代第五分団へ入団したのが始まりでした。最初に勧誘を受けてから、入団に至るまで二年を要しました。

昭和六二年、同じ自治会に住む、消防団の部長より入団の誘いを受けたのが始まりであり、それ以来、顔を合わせる度に勧誘されました。その当時の私は、両親が経営していた酒店を手伝っており、とてもじゃないが忙しいのでと断っていました。

時代が昭和から平成へと代わってからも、勧誘の声をかけていただきましたが、この時期私は地域の街づくりや、青少年の健全育成を目的に、若い世代が活動している能代商店青年クラブ（現在はNPO法人青年クラブのしろ）という団体へ入会し活動していたこともあり、地域のための活動に、一つ入るのも二つ入るの

も同じだなあとの思いから、入団させていただきました。

入団後三年間は、広報やパトロールの度にポンプ車の後部座席に乗り込み、諸先輩の呼びかけに合わせ警鐘のひもを引いてはカーンカーンと鳴らしていたものです。

入団から八年目のポンプ車操法の四番員を分団長から命じられました。選手としては、遅咲きの部類でもあり、分団内でも温かく見守る人もいれば、厳しく指導する先輩もおりました。大会まで三週間の練習を経て、競技大会に臨みました。結果はともかく、競技を止められずに終わったことで、胸をなで下ろした思いが昨日のこのようです。

操法をやったことで、それまで半人前のように見ていた先輩方も、火災現場での信頼度や接し方が明らかに変わりました。甘い考えかも知れませんが、これでやっと消防団員として仲間入りを果たせた感じでした。

それから六年、私自身の生活に大きな変化が起こりました。昭和二四年に創業していた酒店も、両親の高齢と酒類販売業界を取り巻く諸般の事情により、やむなく廃業することとなりました。折角、消防団員として軌道に乗ってきたところであり、丁度、厄年でもありましたが、それまでジंकクスなんて信じていなかった私は初めて不運を実感しました。

その後、アパレル業界の製造工場に就きましたが、折柄の不況や、消防団活動に理解を示していた、ただない職場環境から、しだいに上司とぶつかるようになり、就労五年二ヶ月で自主退職しました。

入団からの道程を振り返り、強く思うことがあります。我が秋田県は急速な高齢化、人口減少が進んでいます。消防団もまた同様です。地域に根ざした消防団の充実強化は地域防災体制を維持していくための喫緊の課題であります。

本業の傍ら、自分達の地域は自分で守るといふ郷土愛と使命感により活動している消防団は、地域のお祭りや行事など、地域コミュニティの活性化の一翼を担っており、地域にとつてかけがえのない存在です。

昨年一二月に消防団を支援する「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立、施行されました。この中で、事業者の協力について、消防団活動が円滑に行われるための配慮や、消防団員に対する不利益な扱いの禁止などが盛り込まれております。この法律が円滑に運用され、消防団員が地域の防災活動に積極的に参加できるよう、地域企業、行政が一体となった一層の環境づくりに取り組んでいただければと切に願うものであります。

今一度、消防団の価値を共有でき

る、全国に先駆けた秋田県としての取り組みを期待します。「消防、その愛の力」を忘れないで欲しいです。



菊地 宏明

・八郎潟町消防団 班長
・勤続四年
・公務員

持ち前の運動能力で、二番員として全県消防操法大会に出場。野球の審判員としても活躍する、三人の子どものお父さんです。

「消防団活動にみえる支え合い」

我が町八郎潟は、県内最小面積の町であり、私はそこに生まれ、穏和で自然豊かな地域に育まれてきました。大学進学のため一度は県外に出ましたが、今はまた地元に戻り、役場職員として地域の方々に恩返しする機会にも恵まれました。

消防活動年数わずか四年の若輩でありますが、私の体験を発表させていただきます。

所属する分団での活動として、何をおいても忘れてはならないのが、小型ポンプ操法であります。第五分団は小型ポンプ操法において優れた伝統を有しており、私が入団するまでに町の大会で一三連覇、県大会でも三位入賞を果たすなどの功績を挙げ

げておりました。そんな中で、右も左も分らずに入団した私に対して、分団の枠を超えて諸先輩方には多くのご指導をいただき、一昨年は初めての出場に関わらず、小型ポンプ操法で県大会出場を果たすことができました。舫いもわからずにいた私が、町の大会優勝メンバーの一員として表彰を受けることができたのは、ひとえに分団の諸先輩方のご指導の賜であり、さらに、県大会出場を果たすことができたのは、消防団に所属する皆さんの献身的なサポートがあつてこそのものであります。

この経験を通して、私は数多くの支え合う姿を目の当たりにしました。地域の防災意識の高揚にも大きな役割を果たす操法大会の練習においては、多くの方から激励のお声がけをいただきました。そうした中で、練習を積むほどに、小型ポンプ操法自体が、支え合いにより成り立つものでもあると強く感じるようになりました。

「操作始め」の合図と同時に、各員は「負けるものか」と競い合うように作業にかかります。しかし、競いながらも協力し合い、各員が迅速かつ正確にと作業に集中する中で、精巧な歯車が噛み合うようにして流麗で素早い操法が成り立ち、強い絆が生まれていることに気づかされているのです。

私は、これを実感することができ

た全県大会出場時の感動を忘れることはできません。互いの分掌作業に責任を持ち、その中で協調し合いながら全体として持てる力を発揮できるように、今年も精一杯頑張ります。そして、私の最も大きな支えとなつてくれているのが家族です。

私には、四歳の長男、二歳の次男、そして〇歳の長女合わせて三人の子どもがおります。家の中は大変賑やかなものですが、それでもなお、操法練習や詰め所での服務に優しく送り出し、仕事もしながら家事全般を担ってくれる妻とそれを支える父母には感謝してもしきれません。

私の子ども達は、保育園から帰宅

旗ヶ森 旗ヶ森 旗ヶ森 旗ヶ森
旗ヶ森 旗ヶ森 旗ヶ森 旗ヶ森
旗ヶ森 旗ヶ森 旗ヶ森 旗ヶ森
旗ヶ森 旗ヶ森 旗ヶ森 旗ヶ森

寺 田 染 工 場

横手市清川町 ☎32-0416

後に、地域の子ともと遊んだ経験がなく、地元地域との繋がりが薄い状態でありました。それというのも、八郎潟町でも少子化による子どもの減少が顕著であり、近所に同年代の子ともがいらない状態であったからです。地域の小学校も、いよいよ一学年一クラスとなりつつあります。近所の子とも同士の遊びを失い、外に冒険に出ることがないため、地域の大人の目にもさらされない、そのような現状を案じることもありましたが、消防活動参加を一つのきっかけに、色々な方々から子ども達にも声をかけていただくことが多くなりました。私が、「消防に行ってくるよ」と言うと、長男次男は「僕も行く」とお出かけの準備をするほどです。私自身は、有事の際には町民の方々の支えとなる役割を担いましたが、まだまだ新米の私は、団員の皆さんに支えられ、そして、私の家族は団員の皆さんを始めとする地域の皆さんに支えられて暮らしております。

この支え合いを大切にしながら、消防団員として微力ながら地域に貢献し、また、いつまでも我が子が「パパと消防になる」と言ってくれるような団員であり続けられるよう、これからも消防活動に励むことをここに約束し、私の体験発表とさせていただきます。

**第68期
初任教**

**実務研修を
終えて**

秋田県消防学校



齊藤 健太
大曲仙北広域市町
村圍組合消防本部

三回目となる今回の研修は、ホースカーを用いたホース延長を行い、自分自身隊員間での声かけ、イメージを持つことに心がけ訓練に臨んだ。ホース延長する際、現場と訓練とでは暗闇での活動、延長する際の車両間の距離など一つとして同じ災害現場がない中で様々な問題が発生する。対応力を身につけるためにも、やはり必要なことは隊員間での声かけである。活動困難な場所ほど情報を共有することで行うことが迅速に活動できるか。また、現場では車両とホースカーの接触事故が多いと聞いていた。時間との戦いである現場だからこそその事故であるが、だからこそ急いでいるときに、隊員間での声かけの重要性を改めて感じる事ができた。上司の方々と共に訓練させていたただくことで、自分のいたらかなさが明確に見えてくる。約一ヶ月後の現場で一人前の消防士として活動できるの

か。

今回の研修でも、新しい知識、自身の改善点を学び、見つけることができた。多くの知識を吸収し、改善点を克服し自分自身イメージを膨らませ現場に即した訓練を行い、上司の方々、仲間と共に多くの命を救いたい。



横田 崇
由利本荘市消防
本部

今回の実務研修は、実際に所属に戻った際にやるべきことを、一日の流れに即して活動しました。午前中は救助資器材の点検や取扱い要領について学習しました。これらの資器材は常に使えるように点検し、正しい使い方で使用しないとケガに繋がるので確認呼称をし、周囲の状況を確認して行うことが非常に大切だと感じました。所属に戻ったら、これらの資器材の使用法を確実にしておくことが必要だと再認識しました。午後からは、火災防ぎよ訓練を行い、私は指揮者を担当しましたが、他の隊員にうまく指示が出せず、苦勞しました。夜は通信勤務についての説明を受けました。無線試験、通報者の方への対応の仕方、通信勤務表の作成などのほか、覚えることも数多

くあり、大変さを実感しました。

今回の実務研修は迅速かつその場に応じた臨機応変な行動が必要であると再確認しましたし、自分には足りない点があはつきりと理解できたので、今後はより一層努力していきたいと思えます。



竹村 奏
横手市消防本部

今回は、二回目の二四時間勤務の実務研修でした。八時三〇分から朝の車両点検が始まり、一日がスタートしました。毎朝行われているこの車両点検や資器材の確認は、前の班が使用したものをしっかりと自分達で確認して、現場に出た際に、円滑な活動するためにとても大事な作業だと思えました。それから朝のミーティングを終え、午前中は各車両に積載されている機器や道具の点検がありました。

ここでは先輩が、一つ一つの使い方を細かく教えていただきました。新人は現場で物を持ってこいと言われるらしいので、その時しっかりとした資器材を持っていけるように、所属に戻ってきたら自分でしっかりと覚えたいと思えました。一つ一つのやる事が、自分が現場で活動す

る時に役立つと考えると、とても勉強になりました。



宮田 昂弥
能代山本広域市町
村圏組合消防本部

八月一四日、一五日の二日間、機関員養成訓練、救急訓練の実務研修を行いました。私は実務経験はありますが、久しぶりの一当務勤務で少し不安がありました。しかし勤務していた時のことを徐々に思い出し、不安も少しずつ取れていき、また先輩方のフォローもあり無事勤務を終えることができました。

機関員養成訓練では、先輩のタンク車の要請訓練を行い、揚水までの流れを理解することができ、将来機関員として出場していくことになるので、とても勉強になりました。

救急訓練では、CPA事案での使用資器材の準備から、傷病者へ接触するまでの活動を確認しました。所属に帰ってから救急車の機関員養成訓練が始まります。救急車に乗る機会も増えるので、今回学んだことをこれからの活動に生かしていきたいと思えます。

学校生活も残り約一ヶ月となりましたが、所属に戻った時成長した姿を見せられるよう努力していきます。



佐々木 茉央
秋田市消防本部

三回目の実務研修となり、午前は、JPTECの訓練を行いました。全体での知識、技術の共有は活動を円滑に行うためにも重要なことだと感じました。JPTECは、警防隊員として活動する上で、自己の安全管理や、救急隊との連携を図るために習得しておかなければいけないと思いました。資料を読み返して復習しておきたいです。

午後は、CSRと三連梯子の訓練を行いました。狭所救助訓練は初めてだったので、とても勉強になりました。梯子の訓練では、基本的な操作を再度確認して残り一ヶ月で少しでも上達出来るように訓練に励みたいです。夜になり、救助出場に同乗させていただきました。初めて防火衣を着装して現場へ行きました。スムーズに活動している先輩の後ろで見学していましたが、それぞれが自分の仕事を要領よく行ってとても円滑に活動を終わっていました。

残り約一ヶ月、所属へ戻ってここで働くんだという意識を以前の研修より強く感じたような気がしました。少しでも成長して戻る事ができるよう毎日を過ごしていきたいです。

株式会社 タカギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182) (32) 3880

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ	キンバイホース
トーチポンプ	シバラポンプ
各種消防機械器具	各種消火器
消防設備保守点検	

ホームページ <http://www17.ocn.ne.jp/~takagi/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

トーチポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋田県代理店
総合防災設備センター

株式会社 高義商会

(営業種目)

- トーチ小型動力ポンプ
- モリタ自動車ポンプ
- ジェットホース
- 消防被服全般
- 火災報知器各種
- 消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183) (42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183) (73)2588



あなたの家庭火災時の避難対策は大丈夫?
子供の80%は2階で就寝しています。
その寝顔を守る備えは万全ですか?

万が一の家庭火災に備え、普段から避難方法を家族でチェックしておきましょう。

- 出火場所は、1階が大半。
- 出火時の煙で、2階から一階に下りるのは困難。
- 非常用梯子も避難手段。
- いざという時の避難方法を家族で話し合う。
- 非常口の表示も必要。
- 避難用具の常備。

火事は早期発見!

運動型住宅火災警報器の設置で早期避難

1階から入った煙が、どうやって2階まで広がっていくのか、どうやって2階から避難するかを家族で話し合おう。



どうやって2階から逃げるか考えましょう!

公益財団法人 秋田県消防協会

秋田県消防協会作成の啓発ポスター

支部情報アラカルト

嵐の中の支部大会

大館北秋田支部では、去る七月二七日(日)に北秋田市合川市民健康広場を会場に、支部代表を決めるべく消防訓練大会を開催しました。

規律訓練・ポンプ車操法・小型ポンプ操法の三部門にそれぞれ大館市から三隊、北秋田市から二隊、上小阿仁村から一隊の計一八隊が出場し、熱戦を繰り広げました。

当日は、時折襲い来る大雨と強風に悩まされ、大会が中断することもありました。特に、ポンプ車操法の部や小型ポンプ操法の部では、筒先から放水された水流が強風により、

火点になかなか届かないといった不運もあり、過去優勝したこともある強豪出場隊がタイムを落とすなど、気まぐれな



天候に左右されました。そんな中で、規律訓練の部では北秋田市阿仁第四分団が、一糸乱れぬ訓練を行い優勝しました。



ポンプ車操法の部では大会二四連覇を誇る大館市消防団比内第一分団が底力を見せつけ優勝しました。

悪天候により閉会式も切り上げて行いましたが、優勝した二隊は、支部代表として県操法大会で頑張ってくれるでしょう。

(情報提供 大館北秋田支部)

携帯電話感知ポイントの表示看板を設置

能代市二ツ井町梅内の四本の林道に、計一〇本の携帯電話感知ポイント表示看板を設置しました。

消防団が行方不明者捜索時に目印として利用するものです。この看板

火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	平成26年		平成25年			同期比較	
	8月	累計	8月	累計	年計	8月	累計
建 物	10	144	13	142	204	- 3	2
林 野	1	42	0	34	34	1	8
車 輛	3	18	0	29	39	3	-11
そ の 他	4	57	3	59	72	1	- 2
合 計	18	261	16	264	349	2	- 3
死 者 数	2	27	0	16	22	2	11
負 傷 者 数	1	44	4	50	66	- 3	- 6

(情報提供 中田潤会長)



の設置により、迅速な捜索活動が行われ、一人でも多くの遭難者の早期発見に寄与することを願っています。

森田 ポンプ ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 能代消防センター
株式会社 協 立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651